

2022年度 しぶち一活動報告書

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

【目次】

1. 「しぶち一」3つの活動の概要	2
①憩い	
②ドキドキづくり隊	
③わくわく探検隊	
2. 3つの活動における成果と課題	3
①憩い	3
A 成果	
B 課題	
②ドキドキづくり隊	4
A 成果	
B 課題	
③わくわく探検隊	5
A 成果	
B 課題	
3. 『しぶち一』全体の活動報告	6
A 他団体や地域との連携状況	6
B イベント。ハイキング一覧	7

1 『しづちー』3つの活動の概要

当団体『しづちー』は、不登校状態にある子どもの支援を中心に、シングル家庭・発達障害・友達づくりが苦手など、生きづらさを抱えている子どもたちを支えるために、「憩い」・「ドキドキづくり隊」・「わくわく探検隊」という3つの活動を行なっている。

①憩い(いこい)

開始時期:2021年5月

対象:不登校状態にある小中学生

頻度:週3日(月・水・金)9:00～13:30

料金:1日600円

内容:1日単位で利用できるフリースペース型の居場所活動。

目的:学校の代わりに通い、朝起きて人と触れ合規則正しい生活を維持しながら、心身を癒して、前向きな精神を育む。

②ドキドキづくり隊

開始時期:2020年8月

対象:不登校やひきこもり状態にある小中学生

頻度:週1日～月1回

料金:1回1,500円(交通費込)

内容:不登校や引きこもりの状態にある子どもたちの家に訪問し、プログラミングでゲームやブロックで作った作品を動かし遊ぶ。

目的:友達との交流を断ち、家族のみの関係に閉じこもっている子どもたちとコミュニケーションをとることを目的としている。

③わくわく探検隊

開始時期:2020年3月

対象:不登校・シングル家庭で体験が少ない・敏感すぎる気質・発達障害・ケアラーなど、様々な困りごとや生きづらさを抱えた小中高生

頻度:月2日(基本日曜日)10:00～16:00

料金:無料(交通費や施設入館料は参加者負担)

内容:大阪市近郊の自然豊かな場所へハイキングに出かける活動。

目的:自然環境が生体的に心身を癒してくれるという効果を利用し、ストレスによる疲れを癒し、運動し、楽しい体験を通じて仲間をつくる。体験や好奇心の提供といった側面もある。

これらの活動は、子どもたち個々の状況によって「ひきこもり状態であれば①」「支援者がいれば居場所に行けるようになれば①か③(もしくは両方)」など、子どもが自ら選んで参加できる。

2 3つの活動における成果と課題

前年度から継続して3つの活動を行なった結果、『憩い』に参加している不登校の状態にある子どもたちが『わくわく探検隊』のハイキングに参加するケースも増えてきた。

また、しぶちーの3つの活動への参加が難しい子どもであっても、親子で参加できるイベントに参加できたという成果も見られた。

全体の課題としては、ボランティアの継続と資金面がある。資金面は、民間の助成金頼りとなっているため、助成金を獲得できなければ活動を縮小せざるを得ない状況である。

① 憩い(いこい)

A 成果

- プログラミング教材やレゴブロック・PC2台とタブレットを1台購入したことにより、子どもたちがそれぞれの興味に沿った遊びを選択できる環境がさらに整った。また、子ども同士と一緒に遊ぶ機会も増え、『憩い』が終了した後も神社の公園でブランコや鬼ごっこをしてから帰る姿も度々見られている。
- 学校への登校刺激が増える4月や5月に不調をきたした子どもも出たが、朝の学習を辞めて、本人の喜びに沿った活動や笑いの絶えない環境作りに力を入れることで、現在は以前よりも心身の強さが増し、小学校にも時々通うようになった。
- タブレット等の環境が整ったことで、オンライン上で子どもたちやボランティア全員がゲームを楽しむことができるようになり、子ども同士の中を深めるきっかけとして役立っている。
- 「何を言ってもしっかりと受けとめる」という傾聴に重きを置いた支援を行なっているため、お喋りが絶えない活気ある居場所となっている。「笑える事」「ユニークな事」を言いたいという欲求から、子どもたちがお互いの発想に刺激を受けながら創造性を高め合っている。

参加者	登録人数6名 毎回利用:2名 月1～週1利用:2名 イベントのみ利用:2名
進学・復学	週一の復学:1名 中学校進学:1名
企画・イベント	・区民プール ・ハロウィンイベント ・建築ワークショップ ・モーニング企画 ・ジオラマ走行体験 ・公園でお花見
特別講師	・論語 ・絵画
支援体制	常勤職員:1名/1日 ボランティア:0名～2名/1日

B 課題

- オンラインゲームを取り入れたことで、朝からゲームをしたいという欲求が強い子どもが出てしまった。ゲームの時間を決めて対処しているが、ゲーム以外の時間が退屈に感じるようになってきているため、特性的に1つのことに集中してしまいがちな子どもへの対応策が必要でとなっている。
- 基本的に送り迎えは保護者が行うこととなっているが、憩いの活動時間内に送り迎えが難しい家庭の子どもは定期的に通えない状況となっている。
- 22年度は、憩いに見学に来るも参加できなかった子どもが2名いた。「まずは、訪問型の『ドキドキづくり隊』から参加してはどうか？」と促すも繋がることができなかった。
- 継続参加するボランティアの確保が難しく、1年間続けて参加したボランティアは1名のみであった。ボランティア応募者は「休職中だけ」「時間が空いた時だけ」というものが多く当日の欠勤も頻繁にあり、子どもたちが名前を覚えないうまま辞めてしまうケースが後を立たない。また、「子どもに懐かれない・子どもと遊ぶことは楽しそう」という気持ちで応募するも、実際は傾聴力・共感力・忍耐力が必要な現場であり、「休みたければ自由に休んで良い」という環境でも無いことから辞めるのであろう。しかし、ボランティアであってもある程度の責任感と子どもたちの成長を支えたいという思いは必要であると考えている。

② ドキドキづくり隊

A 成果

- 本年度は「マイクラフト」や「オンラインゲーム」も取り入れた。その結果、レゴブロックやプログラミングに興味が無かったり、集中して何かに取り組むことが難しいという子どもであっても、支援者と遊びを楽しめるようになった。
- 週1日ごとに家庭を訪問しているため、子どもの気分や体調の変化を直に見ることができている。子どもが心を閉ざしがちな時期は拒否的な態度を取られることもあるが、繋がり続けることで信頼を得ることができた。

参加者	3名 ほぼ毎週:2名 時々:1名
支援体制	訪問支援員:1名/1回

B 課題

- 訪問型であるドキドキづくり隊を経て憩いへ参加したほうが良いと思われる子どももいたが、なかなか訪問を受け入れてもらえない現状にある。
- 週に1回、保護者とも顔を合わせることで、保護者自身への支援が必要であると感じることがあるが、適切な支援を紹介できない状況にある。
- 家庭訪問できる支援員を増やしたいが、子どもたちそれぞれに適切な対応方法が異なり、個人の共感力・対応力の深さが求められるため、ボランティアで補うことは難しい。

③ わくわく探検隊

A 成果

- 『憩い』にのみ通っていた子どもたちが、時々『わくわく探検隊』の活動にも参加するようになった。
- 今年度より中学校に進学した子どもたちも試験の合間を縫って時々参加しており、年下の子どもたちに優しく話しかけたり、支援者の手助け等もしてくれるようになった。
- 子ども同士が仲良くなったり子どもたちがボランティアさんに懐いたり、コミュニケーションを楽しむ居場所としてのあり方も強くなってきた。

参加者	総計：12名
支援体制	職員：1名 ボランティア：0名～2名/1回

B 課題

- 不登校やシングル家庭だけではなく、様々な困りごとを抱えている子どもたちに参加して欲しいが、どこにどのように周知して行けば良いのか思案している。
- 行き先がパターン化してきているため新しいハイキング先を開拓する必要がある。
- 23年度はキャンプにも行きたい。しかし、アウトドアに精通した支援者がいない。
- コロナ禍や燃料の高騰などにより、バスの路線閉鎖が相次いでおり、ハイキング先の選択が狭まっている。
- ハイキング当日まで参加者の人数が変動するため、ボランティアを何人お願いすれば良いのか目処がたたない。また、急遽支援をお断りしたことによるボランティア自身の士気の低下等の影響も懸念している。

3 『しぶちー』全体の活動報告

A 他団体や地域との連携状況

① 中央区子ども居場所連絡会

中央区で子どもの居場所活動をしている団体や中央区社会福祉協議会やそれを応援する企業が連携・協力するネットワーク。2022年11月13日(日)の森ノ宮キューズモールにて「子ども居

場所フェスタ」や、北御堂で開催される「フードパントリー」を連携して行なった。「子ども居場所フェスタ」については、前日まで準備を進めるも雨天のため中止となった。

当団体としては、会議に参加して意見を述べたり、フードパントリーを手伝うなどして協力したが、他団体との交流の機会は少ない状況にあったため、23年度はより交流を深めて行きたいと考えている。

②天王寺区子ども居場所連絡会

天王寺区で子どもの居場所活動をしている団体や天王寺区社会福祉協議会が連携・協力するネットワーク。2023年3月4日(土)にフォーラムを行い、話し合いのファシリテーターとして参加した。

中央区子ども居場所連絡会と同様に他団体との交流が少ない状況であった。天王寺区は学習支援団体が複数あるため、当団体ともに協力・連携し合える可能性が高いと考えており、親交を深めたいと考えている。

③天王寺動物園

2022年7月天王寺動物園とのコラボ企画を実施した。企画内容の1つめは「動物のブロック展示」で、動物園内にある「てんのうじズーミュージアム」内のガラスケースにレゴブロックで作った動物を展示した。企画内容2つめは、「YouTube動画の配信」で、レゴブロックの動物を使ってコマ撮り動画を撮影してYouTubeで配信した。

新型コロナの流行時期であったため、子どもたちが制作に参加できない状況が発生したが、自宅にブロックを届けるなどして、興味を持っていた子どもたちは何らかの形で参加することができた。天王寺動物園にブロックを展示する日は、持ち運ぶ時にブロックや風景の一部が崩れてしまったが、作り直したり新たな動物を作ったりと、かえって子どもたちの創造性が発揮される結果となった。

ブロックの購入は『熊西助成財団』の助成金を、ボンドや用紙などの工作道具は、『さわやか福祉財団』の助成金で賄うことができた。

④タリーズコーヒーや高津宮(神社)

2022年11月にタリーズコーヒー天王寺公園店協力のもとで、ハロウィンイベントを実施し、コーヒーのドロップや味付け・お客様への試飲の提供などを体験し、お菓子とお土産をもらって帰った。

親御さんの見学も可としたことで、外出しての参加が難しい子どもも参加することができた。イベント終了後は天芝でお弁当を食べて縄跳びやボール遊びなどをして、以前から参加している子どもと新しく参加し始めた子ども同志の交流が深まった。

また、憩いの活動場所である高津宮の歴史ある行事にも時折参加し、様々な神事や人々と触れ合う機会を設けて、年配の方々とも交流することができた。(6月:茅の輪ぐり 1月:ドンド)

⑤大阪星光学園中等部

2022年11月、大阪府中央区社会福祉協議会からの要請を受けて、子ども食堂『しま☆ルーム』代表の仲様と共に『大阪星光学園』で講演を行った。しぶち一代表として中学3年生の生徒に向けて「活動を始めたきっかけ」について話し、生徒たちからも「自分も将来人の役に立ちたいと思った」など肯定的な感想を多く頂いた。

⑥講師としての支援いただいた団体や個人

- ・『憩い』活動にて、野崎様による「論語を楽しむ会」を開催 全：7回
- ・『憩い』活動にて、画家の下地様による「絵画教室」を開催 全：8回
- ・『憩い』活動にて、一級建築士の細田様による「建築ワークショップ」を開催
8月3日
- ・『クリスマス会』にて、NPO法人ゆるんの後藤様による「アイシングクッキーワークショップ」を開催 12月24日
- ・『イベント』にて、バルーンアート協会の浦田様による「バルーンアート教室」を開催 1月15日

⑥区役所との連携

中央区や天王寺区役所の「スクールソーシャルワーカー」や「サポートネットワーク」の方々が『憩い』を見学、しぶち一の活動を周知していただいている。

B 22年度のイベント・ハイキング一覧

月	行き先・イベント名	活動名
4	箕面公園	わくわく探検隊
4	カップヌードルミュージアム	わくわく探検隊
5	私市(川あそび)	わくわく探検隊
5	むろいけ園地	わくわく探検隊
6	鶴見緑地公園(ザリガニ釣り)	わくわく探検隊
6	西猪名公園ウォーターランド	わくわく探検隊
7	箕面公園(川あそび) (川あそび)	わくわく探検隊

7	ブロック作りイベント&神津宮茅の輪くぐり	わくわく探検隊
7	天王寺動物園イベント	しぶちー
9	トレジャーハンターIN千島公園(中止)	わくわく探検隊
10	柏原市観光ぶどうセンター	しぶちー
10	福知山廃線跡	わくわく探検隊
11	ハロウィンイベント(タリーズコーヒー)	憩い
11	中央区子どもの居場所フェスタ(中止)	しぶちー
11	芦屋川ロックガーデン	わくわく探検隊
12	クリスマス会	しぶちー
1	バルーンアート&高津宮トンド	しぶちー
2	箕面公園	わくわく探検隊
2	私市	わくわく探検隊
3	京都鉄道博物館	わくわく探検隊
3	服部緑地公園(石臼体験)	わくわく探検隊